

桃谷中学校

# 元気アップ通信

令和7年10月

暑さも少し和らいで体育大会、文化発表会と大忙しの月がやってきました。運動場から聞こえる行進の音楽や笛の音、皆さんの元気のいい掛け声にこちらの気持ちも盛り上がっています。みなさんに負けないよう、こちら図書館でも盛り上げていきたいと思います。まずは先月の続きで本の外側の話から。

## 本の外側うんちく話

今月は本の外側の思わず『へ～』と言ってしまいそうな話をしたいと思います。

まず本は出版社から発行されます。この出版社にはどんなところがあるかわかりますか？

ジャンプでおなじみ集英社。コロコロコミックや学年別雑誌の小学～年生は小学館。アニメやゲーム、映画など幅広く展開しているのは KADOKAWA。他にも講談社、新潮社、岩波書店などがあります。みなさんが普段使っている教科書も啓林館、東京書籍などの出版社から発行されています。

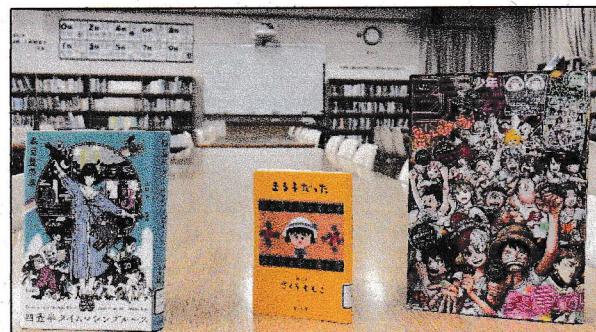
発行された本はだいたい何種類かの大きさにわかれています。例えば、

単行本（ハードカバーに多い。写真左）

文庫本（ポケットサイズ。写真中央）

B5判（週刊誌や雑誌コミックなど。写真右）

などのサイズがあります。



文庫本くくりの話ですが、実は出版社によって少しずつ高さが違います。

早川書房が一番背が高い。

左から

KADOKAWA

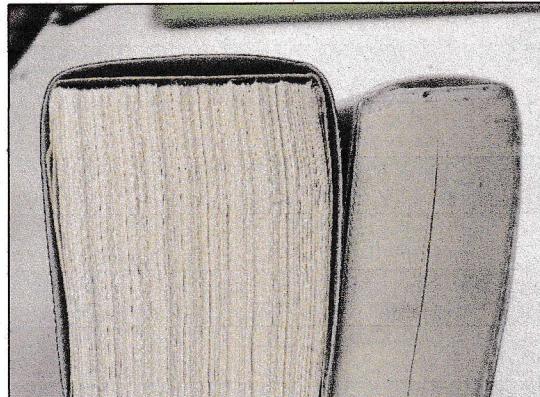
講談社

新潮社

早川書房



天の部分は、ザラザラしている本（早川書房と新潮社）と、ツルつとしている本（KADOKAWAと講談社）があります。左が早川書房。右が講談社。



しおり（スピンドルとも呼ばれている）がついているのは新潮社だけです。

写真左

どうでしたか？まだまだ本についての『へ～』があるのでそれはまたおいおいに。

# 実は借りられるコミックもある

桃中図書館には「鬼滅の刃」「文豪ストレイドッグス」など禁帯と言って図書館の外への持ち出し、貸出ができないコミックばかりでなく、実は貸出OKになっているコミックもあります。

日本の歴史や個人伝記のコミックはもちろんなんですが、娯楽だけではなく何か学びにつながりそうなコミックは貸出可能本として配置しています。

今回はその中から4冊紹介したいと思います。



このシールが背表紙に貼ってあると借りられません。

## 『吹奏楽に恋をして!』 由女

このコミックは、「響け! ユーフォニアム」の前に刊行された本で、吹奏楽をやっていた人にとってはあるあるの吹奏楽ネタはもちろん、音楽好きな人や興味のある人に吹奏楽の楽しさを伝えてくれます。



## 『憑きそい』 山森めぐみ

すべて実体験。タイトルからわかる通りホラーです。作者は普通の主婦の方。でも他人には見えないものが見えててしまう。

「黒い服の人」「そっちじゃない」本のタイトルにもなっている「憑きそい」を含む全13話。



## 『お家、見せてもらっていいですか?』 佐久間薰

アニメやゲームよりも家を探求することに情熱を注ぐ小学3年生の家村道生が、自由研究のためにチョコDEパイをお礼として近所の気になるお家を見せてもらうというお話。建築のお話だけでなく、道生と家主の交流にもドラマがあっておもしろい。



## 『戦争は女の顔をしていない』 スヴェトラーナ・アレクッシューヴィッチ

第二次世界大戦で軍医や看護婦としてだけでなく兵士として武器を手にして戦った女性にインタビューし戦争のリアルを描いた作品。

ただ、戦争の悲惨さだけでなく敵味方を超えた「人間愛」と呼べる様な話も収まっていたことは救いだなと思った。

桃中には5巻まで揃っていますが、その内1冊でもいいので読んでみて欲しい。



この辺りにあります。

他にも

『ただいま収蔵品整理中』 や

『水族館飼育員のキッカイな日常』  
のようなお仕事コミックもあります。

